肺癌治療に特定食品が寄与した一例

○寺田嘉枝子、寺田正樹

大久伝内科

【目的】

ヒトの遺伝子上の寿命は120歳と言われるが、医学の進歩でも、まだ達成できていない。

我々は、特定食品に、その解決の糸口を求め、治験を行った。

【方法】

中鎖脂肪酸の多機能性(抗がん作用、睡眠改善など)に注目し、50歳代男性に服用させた。

他には、イミダペプチド、 $\omega-9$ 、 $\omega-3$ などである。

【結果】

特定食品による治験中に肺がんが判明し約80日

間で肺がんが改善(Stage III A)し、PRとなった。

抗がん剤の副作用もなく、食欲低下は認めなかった。

【結論】

肺がんの通常治療に、特定食品の食用を併用し、PRに至ったと考える。作用機序は中鎖脂肪酸でミトコンドリア内のケトン体代謝が活性化し、抗がん作用の一部を担ったと推測される。

医学の進歩は医療費高騰を引き起こすが、我々の治療が奏功すれば医療費削減の一助になる。